

2005年10月 3日

横浜市磯子区長
永井富雄様

坪呑公園自然生態園の管理について（要望）

NPO 法人 神奈川県自然保護協会
理事長 新堀豊彦

貴管内、坪呑公園自然生態園は、1985年の団地開発の際、埋立てを回避して保全を図り「自然生態園」として確保されたものであり、これを提言した「杉田の自然と風致を考える会」とそれを支持した各種団体、更にそれを取り込まれた当時の行政関係者の見識は高く評価されております。

近年、年月の経過の中での変貌に対し、これを整備され管理運営を地元団体に委託されたと伺っております。このことによってこの地本来の生態系が大きく損なわれ、希少生物の消滅が危惧されていると報告があります

言うまでもないことですが、見かけのきれい汚いや、明るい暗いの判断と生物多様性の豊かさや希少生物の存在とは整合しません。この園地を設定された趣旨に立ち「自然生態園」としての管理運営を行う事を要望します。

この地に自然生態園を確保された歴史を大切にし、市民に此処が「自然生態園」であることを周知する努力をし、豊かな生物多様性や希少生物の存続のためには、入場が制限されたり、暗かったりすることが必要な場合のあることを伝える事が環境教育です。

地元の人達の郷土愛だけでは、自然生態園の管理運営は出来ません。学識経験者の指導を組み込まれますようお願いいたします。